



日時:2014年11月8日

ファシリテーター:

三浦 まり(室長補佐・法学部地球環境法学科教授)

第1部 「好きって気持ちで、ごまかしてない?縛られていない?」

講師:中島 幸子(NPO法人レジリエンス代表)

第2部 「自分のからだをもっと知ろう!」

講師:徳永 瑞子(総合人間科学部看護学科教授)



DVの関係性について話す中島氏

昨年度大変好評だったデートDV講座に引き続き、若い時期から継続的に啓発していくことが効果的であると考え、今年度は千代田区の男女共同参画センター(MIW)との共催で女子高生及び女子大生を対象に開催しました。「LINEにすぐ返答すると言われる」「私のスマホ、どうして見るんだろう?」「いつも一緒にいることを要求される」「好きだけど、時々彼が怖い…」昨今デートDVは単なる暴力やストーカー行為にとどまらず、SNS間で発生する問題(デジタル暴力)の深刻化が懸念されております。今回は、大学生による寸劇も交え、デートDVとはどういうものなのか、気づきのサインや相談された時の対応などを一緒に考えました。健全な関係性は対等であること、尊重し合えることであり、そのような関係が築けているかどうか自分自身や周りについても今一度振り返ってみる良い機会になりました。

また、第2部では、アフリカで医療活動を行ないながら、学生や助産師への教育に携わっている本学看護学科の徳永瑞子教授が、女性のからだの仕組み、妊娠や避妊について講義しました。徳永教授は「性は「いのち」につながっています。自分の身体は自分しか守ることはできない。自分のからだや生理的な動きを理解し、恥ずかしながら自分のからだの変化にもっと関心を持ちましょう」と訴えました。男女共同参画推進室では今後も積極的に「デートDV」をテーマにした啓発を行っていく予定です。



望まない妊娠が引き起こす問題について話す徳永教授

ひらめき☆ときめきサイエンス

「ルービックキューブと数学」

日時:2014年12月13・14日

男女共同参画推進室の「次世代育成」の取り組みの一環として、今年度も2日間にわたり、高校生対象「ひらめき☆ときめきサイエンス～よろこぶ大学の研究室へ～KAKENHI」を共催しました。今回は数学研究および実験数学の楽しさを体感してもらおうと身近なルービックキューブを題材にプログラムを企画。33名の高校生たちが手元のルービックキューブを使って演習問題に取り組みました。講師の中筋准教授(理工学部情報理工学科)は大学で学ぶ「群論」について「あみだくじ」を例にスライド等を用いてわかりやすく講義し、生徒たちは頭を悩ませながらも、TA(大学生のアシスタント)の丁寧な指導のもと楽しく取り組んでいました。参加者たちからは「身近なものを数学で表せることを知ってとても興味がわいた」「動きを数式で表すのは難しかったが、今度は別のものを使ってまた挑戦してみたい」などの声が寄せられました。

中筋准教授は「数学領域におけるこのような取り組みは過去にあまり例がなく、数学を題材に開催できたことは意義があったと思う。今後も数学の楽しさを見出すきっかけ作りに積極的に取り組んでいきたい」と話しました。



ルービックキューブの配置を考えてみよう



ルービックキューブの配置について説明する中筋准教授



オリジナルの法則を見つけることに挑戦

公開授業

「魂のこぼれを伝えたい ママアナウンサー奮闘記」

日時:2015年1月13日

NHKのアナウンサーとして第一線で活躍するとともに、プライベートでは三人の子育てに奮闘中の武内陶子氏をお招きして講演会を開催しました。彼女の言葉のひとつひとつから、逆境を前向きにとらえ出逢いに感謝することの大切さや、伝える言葉の大切さを学びました。

また、仕事と子育てを両立するための彼女ならではのタイムマネジメントや体験談は、これから社会に羽ばたいていく学生たちを力強く勇気づけてくれました。

NEWSLETTER

上智学院
男女共同参画推進室

March 2015 No.5

新たな支援のステージへ 2014年度活動報告

初!

教員向け男子学生支援ワークショップを開催しました。

日時:2015年2月16日

このたび、「意識啓発」に関する新たな試みとして、カウンセリングセンターと共催で初めて教員を対象とした男子学生支援のワークショップを開催しました。本学(学部)では、女子学生が半数以上在学しており、学科や研究室によっては女子学生が大部分を占めていたり、理工学研究科でもここ数年で男女比が逆転した研究室がでてきております。そのような状況の中で、一部の男子学生が入学前後の環境のギャップに適應できず、ゼミや研究室で周囲とうまくコミュニケーションがとれず体調不良となっているケースが発生しています。これらの現状をふまえ、様々な学科から教員が集い、少数男子学生の対応について情報を共有し、学生の心のケアや適切な指導の仕方について考えました。



報告・意見

- ▶ これまで男子学生が多数派であった学部学科で男子学生マイノリティ問題が起こり、学生本人も、また教員も対応に戸惑っている。
- ▶ これまでの指導方法ではうまくいかない。男女比のバランスが崩れると学生間のトラブルが増える傾向がある。
- ▶ 入学時から少数派になることがわかっている学科の学生とは異なり、周囲に溶け込めない場合がある。
- ▶ 男子学生問題ではないが、留学生や帰国子女の多い学科では英語力を理由に萎縮してしまうケースがある。
- ▶ 傷つきやすい学生が多くなっているように思う。アテンションが偏らないように気を配る必要がある。
- ▶ 教員の学生時代のエピソードなどを共有することで相談しやすい雰囲気をつくるのが大事。
- ▶ 今後社会で活躍できるよう指導する必要もあり、過度な介入は避けたいほうがよいが、常に相談にのるつもりがあることを伝えるのが大事。



カウンセリングセンターからは、センター長の横山恭子教授(総合人間科学部心理学科)及び3名のカウンセラーが参加し、少数派男子学生に関わらず、気づかないうちに「マジョリティ」が「マイノリティ」を傷つけている可能性があることを日頃から気をつける必要があるとし、教員は、全ての学生に対して相談しやすい環境作りを心がけてほしいと対応について話がありました(言葉づかいや呼び方に気をつけ、感謝を言葉にするなど)。また、学生生活において特に大事なものは所属感(居場所感)を持つことであり、ゼミや研究室で難しいと感じる場合は、サークルやバイトなどの集団の中で、自分らしくいられる場所を見つけるなどして心のバランスを保ってほしい、そして大学が学生の成長・発達の中で起こるすべての悩みや痛みをなくそうというわけではなく、それぞれの学生の特徴を把握し、適度に声をかけたり、個別に話す時間を設けたりなど適宜判断し成長過程を見守ってほしい、とのアドバイスがありました。



ロールモデル集Ⅳ 「Sophianの仕事と子育て～男性編～」が完成!

「イクメン」という言葉が独り歩きしている!?

これまで、女性研究者にフォーカスしたロールモデル集を第3集まで発行してきましたが、今年度は、男子学生にも職場環境やパートナーへの理解を深めてもらうことを目的として、子育てに積極的に関わっている男性教職員に焦点をあてたロールモデル集を作成しました。本学の教職員のワーク・ライフ・バランスやキャリアパスの多様性を紹介しています。



2014年「スーパーグローバル大学創設支援事業(グローバル化牽引型)」に採択!

理系女性のキャリア 2014 ~理系女性×外資系×リアル

日時:2014年8月8日

今年で2回目となるボッシュ株式会社主催の理系女性向けキャリアイベントが開催され、本学の学生のほか全国から約100名の理系女子学生が参加しました。今回は『理系女性×外資系×リアル』と題し、大手外資系企業3社(ボッシュ、日本ロレアル、日本マイクロソフト/マイクロソフトディベロップメント)がタッグを組んで、就活にこだわらず「理系女性として働くこと」、「外資系で働く女性のリアル」について講演しました。

まず第1部では、経済産業省男女共同参画・子育て担当の関万里係長と理系女子学生3人を交えたパネルディスカッションを実施。理系女子の強みや、女性が働きやすく活躍しやすい企業選びのポイントなどをアドバイスいただきました。第2部では、それぞれのフィールドでグローバルに活躍する外資系企業の理系女性研究者が登壇し、現在の仕事内容やプライベートとの両立について紹介。学生たちは、専門分野以外での理系女性の活躍の場も知ることができました。

参加者たちからは「理系女性が活躍している事例を知ることができ、仕事や将来に希望がもてた」、「企業選びの参考になった」、「同じ理系でも開発担当の人と顧客サービス担当の人との両方の話が聞けて視野が広がった」などの声が寄せられました。



終了後のネットワーキングパーティでは、直接質問をするなどして交流を深めました



グローバル企業で働くリアルを紹介

グローバル・メンター相談会開催

メンター **Natasha Warner 先生**
(米アリゾナ大学)

日時:2014年7月29日

専門:音声学、心理言語学、言語復興

音声コミュニケーション専門の荒井隆行教授(理工学部情報理工学科)と共同研究を行っているアリゾナ大学のNatasha Warner教授をお招きして相談会を開催しました。参加者たちからは、研究と家庭との両立についての質問が多くとびかき、アメリカのワーク・ライフ・バランス事情をお話いただきました。Natasha先生は、両立支援については制度の導入よりも、意識啓発に取り組むことが重要だと指摘されました。ワーク・ライフ・バランスの推進は、仕事や職場への満足、そして組織にコミットする度合いを高めることができよい結果をもたらします。子育てに関わっているか否かに関係なく、すべての人にとって非常に身近で大切な課題であることに改めて気づかされました。



メンター **Silvana Condemi 先生**
(仏マルセイユ大学)

日時:2014年12月8日

専門:古人類学(原始人類学)

フランスCNRS及びマルセイユ大学から古人類学ご専門のSilvana Condemi先生をお迎えして相談会を開催。本学では学ぶことのできない分野ですが、興味をもった学生が集まり、学外(オーストラリア大学生)からの参加もありました。各参加者の研究活動について簡単に自己紹介した後、Silvana先生より研究分野の紹介、発掘現場での様々なパブリックや女性研究者として大変なことなどをお話していただきました。また、なぜ古人類学に興味をもったのか、なぜ研究者の道を目指したのかという問いには、大学生のときに出逢った先生がきっかけだったとお話され、素晴らしいロールモデルに早い段階で出逢えたことはとても幸運だったとお話されました。



メンター **June Levitt 先生**
(米テキサス女子大学)

日時:2014年12月22日

専門:言語によるコミュニケーション科学/障害

レビット順子先生は大学卒業後コンピューターソフトウェアの会社に勤められ、仕事を通して出会ったアメリカ人男性と結婚。出産後、自営技術翻訳のお仕事をしばらくされた後大学院へ進むことを決意し、コミュニケーション科学、脳科学、障害などを専攻され、現在はテキサス女子大学のAssistant Professorとして活躍されています。学業・仕事と子育ての両立、また外国の地での苦難やモチベーションを保つ方法などをお話していただきました。また、これからアメリカの大学院への進学を希望している学生へ「なぜ日本ではなくその地で学びたいのか」のビジョンをしっかりとアピールすることが大切だとアドバイスをしてくださいました。



ソフィア・パープル・アクション

世界中の女性に対する暴力をなくす運動/16日間キャンペーンについて知ろう!

実施期間:2014年11月25日~12月10日

女性に対する暴力撤廃の国際デー(11月25日)から国際人権デー(12月10日)までの16日間に世界規模で行われている「ジェンダーに基づく暴力撤廃を目指す16日間キャンペーン」に合わせ、本学でも学生と協力して暴力や差別を許さない文化の醸成を目指したキャンペーンを実施しました。学生たちはキャンペーンの歴史的な経緯や世界各国の取組等を紹介したパネルの展示を行ったほか、啓発グッズの配布を通してシンボルカラーの紫色の着用を呼びかけました。

また、国際協力論ゼミ(田中雅子准教授)では、キャンペーン期間中に学生同士が「デートDV」について語り合うイベントを実施。本学で起こりがちな事例をもとにした寸劇や小グループでのディスカッションを行い、防止や解決策について考えました。



入ソフィア・パープル・アクション入



外務省・ICRC 共催シンポジウム

「武力紛争下における性的暴力」その現状と課題

日時:2014年11月25日

「女性に対する暴力撤廃国際デー」である11月25日に、四谷キャンパスにて、国際社会における性的暴力の現状とその課題について議論するシンポジウムが開催されました。本学からは田中雅子男女共同参画推進委員(総合グローバル学部准教授)がパネリストとして登壇し、今後国際社会はどのような支援を目指すべきか、また、私たちに求められる役割等について議論しました。

世界的女性リーダー3名 特別講演

外務省主催「女性が輝く社会に向けた国際シンポジウム World Assembly for Women in Tokyo: WAW! Tokyo 2014」関連イベント

日時:2014年9月14日

この講演会は、同シンポジウムに参加するために来日した世界的に著名な3人の女性リーダーたちと学生が対話を通じて、彼女たちの生き方や経験を直接学ぶ機会を創出することを狙いとして企画されました。当日は約150人が来場し、学生たちは各界で輝く彼女たちから、イニシアチブを発揮して行動することの重要性や今後の国際社会に生きる上で求められることなどを学びました。

<パネリスト>

Shirin Sharmin Chaudhury氏
(バングラディッシュ史上初の女性国会議長)

Tawakel Karman氏
(2011年にノーベル平和賞を受賞したイエメン「革命の母」)

Melanne Verveer氏
(国際女性問題担当として初の米国大使)



VOLVO 社協定調印記念シンポジウム

日本初!
ボルボ・グループと産学教育連携協定を締結
授業科目の協働開発・インターシッププログラム
提供・奨学金制度の創設

日時:2014年11月26日

本学は更なるグローバル人材の育成および世界的企業との新たな形での協力関係構築を目的として、ボルボ・グループと産学連携協定を締結しました。調印式の後は、世界的ダイバーシティ企業であるボルボならではの女性キャリア支援の取り組みなどが紹介され、多様性をどのように強みへと変えていくか、現状を革新するためには何か必要かなどがディスカッションされました。登壇した副社長らは積極的にグローバルなフィールドで挑戦してほしいと学生たちへメッセージを送られました。

<パネリスト>

Joachim Rosenberg氏
(Volvo Executive Vice President, Group Trucks Sales & Marketing and JVs APAC)

Kerstin Renard氏
(Volvo Executive Vice President, Corporate Human Resources)

Karin Falk氏
(Volvo Executive Vice President, Corporate Strategy)

(左)
パネルディスカッション
でモデレーターを務めた
まくどなごん あん男女
共同参画推進委員(地球
環境学専攻科教授)

